



市内の各小中学校では、始業式が先週に行われ、2学期が始まりました。

2学期は、学期の中で一番長い学期でいろいろな行事があります。こどもたちは、行事を成功させるための活動の中で様々なことを経験します。自分の意見が通らなくて衝突することもあり、涙することがあるでしょう。協力し、苦勞して出来上がったなかに大きな感動があるのです。そんな経験をすることでこどもたちは成長します。

こどもたちには、充実した2学期にしてほしいものです。

ほうげんしちょうし 貌言視聴思

みなさんは、「貌言視聴思」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。普段の生活の中で、なかなか聞くことがない言葉ですよ。私もある本を読んでいた時に出会った言葉で初めて知りました。とても素敵な意味を持った言葉ですので、ここでみなさんに紹介しましょう。

江戸時代初期の陽明学者である中江藤樹は、「五事を正す」ことが大切だと教えました。藤樹は、「人は誰でも天から与えられた美しい心（良知）を持っている」と信じ、その心を磨くために5つのことを大切にすることが大事と言いました。その5つが「貌言視聴思」なのです。これら一つ一つの意味は、

貌（ぼう）：穏やかな顔つきで、笑顔でいる

言（げん）：思いやりのある言葉で話す

視（し）：真摯な目で物事を見つめる

聴（ちょう）：全身で相手の言葉を聞く

思（し）：真心をもって相手に接する

ということだそうです。

藤樹は、これら「五事を正す」ことにより、自分自身を磨き、より良い人間関係を築くことで世の中を良くしていくことができると説きました。

私たちは、家庭において、学校において、職場において、そして地域においてもお互い助けたり支え合ったりして生活しています。そのなかで、考え方や価値観が違ったりして衝突することもあるでしょう。お互いの考えをぶつけ合うこともより良い成果を残すためには大切なことです。しかし、例え衝突しても、「貌言視聴思」が実践されれば、良好な人間関係のもとで解決できるのではないのでしょうか。

みなさんの言葉で、こどもに「貌言視聴思」について話してみましょう。難しい言葉でその時はすぐに理解できなくても後に、あの時にお父さん、お母さんが話してくれた言葉だということを思い出し、実践できるようになるのではないのでしょうか。

※中江藤樹の有名な言葉

「それ学問は心の汚れを清め、身の行いを良くするを以て本実となす」

「人生の目的は利得ではない。正直である、正義である」